

板碑に罪はない

香取遺産

Vol.47



▲長嘉板碑



▲寛治板碑

当地において、鎌倉時代中頃から室町時代にかけて盛んに下総型板碑が造立されたことは以前紹介しましたが、新

里地区には平安時代の年号を刻むといわれる板碑が2基もありません。平安時代の板碑となれば、日本で一番古い板碑ということになり、それも指定文化財ということであれば穏やかではありません。

一つは、萬蔵院本堂前の片隅に建つ長嘉板碑といわれているものです。材質は雲母片岩。頂部は三角形に作らず平坦で頂部、側面とも面取りせず、粗い成形痕を残しています。高さ1m25cm、幅106

cm、厚さ9〜10cm。碑面に二重線で三角頂と横長の方形輪郭を作り、上方に蓮華天蓋、中央に蓮台にのる阿弥陀の梵字「キルク」、蓮台の左右端に「長嘉元年六月二〇」、「右

〇〇〇〇」、「阿弥陀佛聖」、「靈第四十九〇」の銘を刻しています。

もう一つは、新里字馬場930の墓地阿弥陀堂前に建つ寛治板碑といわれているものです。材質も横長の碑面を意識した形まで前者とよく似ています。2条線や輪郭線はなく頂部直下に蓮華天蓋、中央に蓮台・円相を伴う阿弥陀の梵字を配しています。現在は碑面の摩滅が著しく判読できませんが、蓮台の左側（碑面に向かって右側）に「寛治の紀年がかすかに読みとれ」とされています。

「寛治」は、西暦1087〜1094年の平安時代の年号です。「長嘉」という年号はありませんが、「長嘉紀年」は私年号で堀河天皇御代西暦千百六年」と解釈され、両板碑は平安時代の板碑として昭

和56年6月22日付けで山田町の指定文化財になっています。これらの板碑の製作年代を平安時代とすることは、以前から疑問があったようです。「長嘉」という私年号の使用例は確認されていないこと。「寛治」の誤読など。年号をどう読むかということよりも、まず成形技法、全体の形、碑面のとり方、天蓋・瓔珞・蓮台の表現法など、当時すでに制作年代のわかっていた資料と比較検討すれば、平安時代の板碑とすることはなかつたように思われます。

これまで年代の明らかになつていない資料と比較すると、いずれも14世紀後半以降の作と思われまふ。

問い合わせ
生涯学習課
☎(50)1224